

粕谷和夫の観察日記より。3月28日、ジュニアクラブの浅川探鳥会。ニセアカシアの林にオナガの集団がやってきました。黒いベレー帽をかぶった姿、少し頭を傾けた姿が気に入りました。

紅葉台



新聞

第237号

2026年

6月6日

発行人：関谷 孝

いのちの側にたつ科学とは 小出裕章

元京都大学原子炉実験所助教
毎年クレヨンハウス(落合恵子の絵本のお店)では、3.11の福島原発事故を契機に「原発の問題・エネルギーの問題」を毎月多彩な講師を迎えて学習会をしています。小出裕章さんは原発の専門家として知るべき事実を教えてください。(2026.3講演より引用)

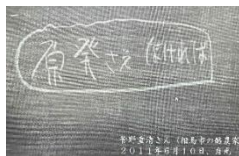
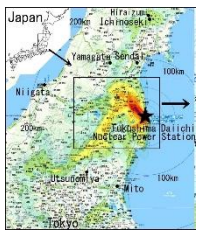
2011年3月11日東北地方太平洋沖地震で、東京電力福島第一原子力発電所が破局的事故になった。

(写真: 激しく壊れた3, 4号機の原子炉建屋)



事故から15年以上たったが、**熔け落ちた炉心がどうなっているか分からない**。これまで0.9g取り出したデブリだが、全体は880トンあると言われる。また、原子炉格納容器にひたすら水を注入してきた**放射能汚染水**を2023年8月から海に捨て始めた。除染土の問題もどうするか残っている。

汚染の主成分はセシウムで半減期は30年。100年で汚染は10分の1になる。そのため人への被爆の限度を20倍に引き上げた。福島ではすでに400人以上の**小児甲状腺がん**が発見されている。国と東電は被爆との因果関係を否定し、何の保証もしない。被害者は声をあげると「風評被害者」としてバッシングを受ける。国は、放射



線業務従事者に対して初めて1年間に20ミリシーベルトという被ばく限度を子どもを含めた住民に押し付けている。また、2017年3月以降自主避難している人への住宅支援が打ち切られた。今では被害者を裁判にかけて追い出しにかかっているのである。まさに「**汚染地にいれば、体が傷つく**」「**避難すれば心がつぶれる**」家族はバラバラになり、住民が分断されているのが現状である。【右写真: 酪農家の最後の言葉】

最近「AIが大量の電力を使うので原発が必要だ」という。試算では全体のせいぜい2~3%に過ぎず、電力供給に支障など生じない。

「脱炭素社会」と言われ化石燃料が二酸化炭素を発生させると言っている。しかし、二酸化炭素は植物が光合成をするために必須の物質。核生成物は生命体にとって圧倒的な危険物である。**死の灰こそ危険**である。

そもそも人間の欲望がエネルギーの浪費を再現なく拡大してきた。大気汚染、海洋汚染、森林破壊、酸性雨、砂漠化、産業廃棄物、環境ホルモン、マイクロプラスチック、放射能汚染、さらには貧困、戦争など人類が引き起こした災害は多岐にわたる。**何より大量生産大量消費のエネルギー浪費社会の抑制に目を向けるべきだ**。

政治は「原子力を平和利用と詐称しながら核兵器保有能力を付けることを目的としている」。

財界は「原発を作るときに大儲け。事故が起きれば『除染』と称して大儲け。誰一人として責任を取らない」

官僚は「経産省を中心に原子力を進めてきた。しかし原発の安全神話は崩壊し、高速増殖炉の「もんじゅ」は廃炉。六ヶ所再生処理工場の稼働は危うい。核燃料サイクルは出来ない」

科学は市井の人たちの幸せのためにある。しかし、今は戦争のため利用されている。一人一人の人間は弱い。科学者も国家の命令に唯々諾々と従っている。「強いものには従え」「長いものには巻かれる」「しっかり勉強して出世しろ」と子供たちに教えてきた。そんな社会、家庭こそ変えなければいけない。

最近の日本は、深刻な差別社会、格差社会が急速に広がっている。多くの人が生活に疲れている。憲法改正も視野に入った。戦争はある日突然に起こるのではない。大きな流れで気付いたときにはだれも止められない。

「戦争が廊下の奥に立っていた」渡辺白泉の有名な言葉である。

人間は簡単に忘れる。「原子力緊急事態宣言が解除もできないまま原子力をすすめるようとする。政権はマスコミや教育を支配してウソの情報を流す。マスコミも戦うべきなのに政府の広報になっている」そんな中で「**主権者として私たち一人ひとりが賢くなる以外にない**」という。小出さんも「国に騙されないで生きたい」と毎朝長野駅に立って一人デモをしている。

「**原発即時全廃・戦争一切禁止**」

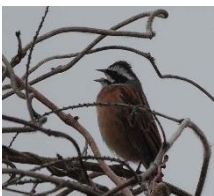
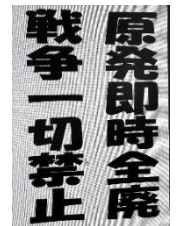
私たちが自分のこととしてどんなことが出来るかどんな社会にしたいか真剣に取り組む時が来ている。まずは福島事故15年を機会にもう一度原点に戻って考えよう。自立した人にならなければ。現実を覆い隠さず知ることから始めよう。皆さんはどう思いますか。

粕谷和夫の観察日記



昨年秋に球根を植えた天神公園花壇の**チューリップ**が咲き出しました☺ 夕方、時間が少し取れたので、チューリップ畑の草取りをしました。半分は草取りが出来ましたが、腰が痛くなったので、家に戻ると隣のワンルームマンションの屋上でイソヒヨドリが綺麗な声で鳴いてくれて疲れた体を癒してくれました。

「春雨じゃ濡れて行こう」4月1日、多摩川の高月の河原、4月の野鳥定期カウントを春雨の中で傘を差しながら行いました。河原でさえずる**ホオジロ**は傘無しで雨に濡れながらさえずっていました。



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。